

20019

OCTの新しい機能『Apposition Indicator』の使用経験

¹桜友会 所沢ハートセンター、²桜友会 所沢ハートセンター

小松 伸太郎¹、蔵田 恭央¹、深谷 大介¹、大津 耀明¹、藤原 充志¹、佐々木 正¹、市本 裕美¹、桜田 真己²

【目的】現在、光干渉断層法(OCT)は、アンギオ同期や3D画像構築などの機能が搭載され標的血管の情報をよりの確に得ることができ治療戦略の意思決定に役立っている。今回、当院で使用しているSJM社製OCT『OPTIS mobile』に新しいSoftware『Metallic Stent Optimization』を導入し4つの新たな機能が加わった。その機能の一つであるApposition Indicatorの使用経験を報告する。

【方法】2016年1月から6月までの患者39名に留置されたSTENTをOPTIS mobileにて後ろ向きに解析し、Apposition Indicator bar(設定はSTENTストラットから血管壁までの距離が $150\mu\text{m}$ <黄色、 $200\mu\text{m}$ <赤色)でカラー表示された箇所(STENTストラットが正しく検出されているか)検証した。患者数39名、vessel数69(LAD:42 LCX:10 RCA:17)また、OCT施行中にモーションアーチファクトが起きた1例及び血流除去が不十分でSTENTの大部分が検出されなかった症例2例は解析に含まなかった。

【結果】カラー表示された箇所は全部で84箇所あり、誤検出と思われた箇所は21箇所(25.0%、 $p<0.05$)あった。原因として、血流除去不良が多く11箇所(52.4%、 $p<0.05$)で約半数を占めた。その他の原因としては、狭窄部付近の乱流やガイドワイヤー・血栓等があげられた。

【結語】血流除去を十分に行なうことによりSTENTの誤検出を約半分に低減する事が可能であることが示された。また、その他の誤検出に関してはOCT使用直前の標的血管の状態に注意して評価することが大切であると考えられる。